

日本再生への 処方箋

成長神話の終焉と新たな挑戦

野村総合研究所 著

野村総合研究所



日本再生への 処方箋

成長神話の終焉と新たな挑戦

野村総合研究所 著

野村総合研究所

日本再生への処方箋

～成長神話の終焉と新たな挑戦～

2003年6月27日初版発行

定 価 本体 2,000円＋税

著 者 野村総合研究所

発行人 藤沼 彰久

発行所 **株式会社 野村総合研究所** 広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル
ホームページ <http://www.nri.co.jp>

制作・販売 NRIシェアードサービス株式会社 出版編集チーム

〒240-0005 横浜市保土ヶ谷区神戸町134

TEL・編集 (045)335-9649／直通 FAX (045)336-1408

販売 (045)336-8542／直通

印刷・製本 株式会社 ひでじま

落丁・乱丁本はお取り替え致します。

© Nomura Research Institute, Ltd. 2003 Printed in Japan.

ISBN4-88990-111-6 C0033 ¥2000E

いかなる形式においても、本書の一部または全部を無断で転載、複製、翻訳することを禁じます。

目次

エグゼクティブ・サマリー

環太平洋圏における競争力回復に向けて……………12

第1章 躍進する中国と日本の課題

〈要約と結論〉……………40

1 中国の台頭と日本——中国の動向は日本に何をもたらすのか……………42

2 中国経済の実態……………44

(1) 改革・開放以降の経済概況……………44

(2) 改革・開放以降の生産性……………46

(3) 外資系企業と財政刺激への依存……………48

| | | |
|---|----------------------|----|
| 5 | 中国経済が日本に与える影響 | 96 |
| | (1) 試される社会安全網 | 76 |
| | (2) 地域格差是正と農村問題 | 80 |
| | (3) 鍵を握る財政改革 | 84 |
| | (4) 期待される個人消費の拡大 | 90 |
| | (5) 好循環入りを目指す中国経済 | 94 |
| 4 | 急がれる社会安全網の整備 | 76 |
| | (1) 現在は戦略的構造調整期間 | 58 |
| | (2) 大型化と集中による産業競争力強化 | 59 |
| | (3) 金融部門の改革 | 61 |
| 3 | 中国経済の今後——十五計画と金融改革 | 58 |
| | (4) デフレ圧力と不良債権問題 | 51 |
| | (5) 内需における地域間格差問題 | 53 |
| | (6) 今後の課題 | 56 |

第2章 高福祉国家スウェーデンの企業戦略

| | |
|--------------------------------|-----|
| 〈要約と結論〉 | 122 |
| 1 異なった角度で見るスウェーデン | 124 |
| 2 スウェーデン経済の歩み——二度の経済危機から立ち直った国 | 126 |
| (1) 驚異的な高成長と福祉社会の形成 | 126 |
| 6 中国経済台頭の日本への含意 | 114 |
| (1) おおむね補完的な日中貿易構造 | 96 |
| (2) 加速化する中国の追い上げ | 99 |
| (3) 日本経済への影響 | 100 |
| (4) 根本的解決ではない為替調整 | 104 |
| (5) 不可欠な日本の産業高度化 | 108 |
| (6) 香港の挑戦——日本にとっての参考例 | 109 |

| | | | |
|----------|-----|------------------------------------|------------|
| | (2) | 二度の経済危機 | 127 |
| | (3) | 金融危機と財政危機を乗り切る | 130 |
| 3 | | 世界的大企業を抱える高福祉・高負担国家 | 134 |
| | (1) | 高福祉 | 134 |
| | (2) | 高負担 | 135 |
| | (3) | 高福祉・高負担と財政 | 136 |
| | (4) | 数多い国際的大企業 | 144 |
| | (5) | 高負担イコール高コストではない | 151 |
| 4 | | スウェーデン型資本主義——社会民主党、労働組合と大企業 | 157 |
| | (1) | 社会民主党 | 157 |
| | (2) | 労働組合 | 159 |
| | (3) | 大企業 | 162 |
| | (4) | 三者の関係 | 163 |
| 5 | | 変貌するスウェーデン型資本主義——グローバル化の進展 | 168 |

第3章 避けて通れない医療・介護分野の構造改革

〈要約と結論〉

| | |
|-----------------------------|-----|
| (1) 変化する企業群 | 169 |
| (2) コーポレートガバナンス | 173 |
| TOPICS1 異なる道を歩み始めたスウェーデンの企業 | 179 |
| (3) EUへの加入とユーロの導入 | 185 |

1 改革が必要な法定福利厚生費

| |
|-----|
| 196 |
|-----|

2 改革が急務の医療保険制度

| |
|-----|
| 199 |
|-----|

| | |
|---------------------------|-----|
| (1) 医療保険制度の概要 | 199 |
| (2) 二〇〇二年の医療制度改革 | 203 |
| (3) 医療保険の仕組みと医療費の負担構造 | 206 |
| (4) 再編による財政基盤強化が必要な医療保険制度 | 212 |

| | | |
|------------|---------------------------------------|------------|
| | (5) 必要となる情報化投資…………… | 222 |
| | (6) 医療サービス供給体制について…………… | 224 |
| | (7) 混合診療について…………… | 229 |
| 3 | 高齢者介護と住まいの充実に向けて…………… | 233 |
| | (1) 介護保険の概要と問題点…………… | 233 |
| | (2) ライフステージに合わせた住環境の整備…………… | 240 |
| | TOPICS 2 オランダの事例に学ぶ——高齢者介護と高齢者住宅…………… | 244 |
| | (3) 必要となるバリアフリー住宅の供給…………… | 263 |
| | (4) 介護施設におけるホテルコストの徴収…………… | 266 |
| | (5) 高齢者ライフプラン…………… | 270 |
| 第4章 | 高コスト体質の是正による日本経済の再生…………… | 278 |
| | 〈要約と結論〉…………… | 278 |
| 1 | 岐路に立つ成長志向型経済社会システム…………… | 280 |

| | | | |
|-----|---|--------------------|-----|
| | 2 | 空洞化の進展とデフレ圧力 | 293 |
| (1) | | 日本経済の構造問題の本質 | 293 |
| (2) | | 産業の空洞化とは何か | 294 |
| (3) | | 日本企業の競争力 | 295 |
| (4) | | 海外直接投資の拡大 | 297 |
| (5) | | 海外直接投資増加のインパクト | 300 |
| | 3 | 不可欠な非製造業部門の効率化 | 304 |
| (1) | | 海外移転が進む最大の理由 | 304 |
| (2) | | 過剰債務・過剰資本 | 310 |
| (3) | | 非製造業部門の効率化シミュレーション | 311 |
| (4) | | 効率化を通じた日本経済再生の鍵 | 314 |
| (5) | | 非製造業の効率化の持つ意味 | 315 |

(6) デフレスパイラルに陥らないか……………316

4 非製造業分野の効率化を推進する施策……………320

- (1) 規制緩和、民営化の必要性……………320
- (2) 不良債権処理についての考え方……………326
- (3) 堅持すべき財政再建路線……………330
- (4) 個人消費の活性化に活路を見出せ……………335
- (5) 構造改革期の日本経済……………338

5 構造改革後の日本の姿……………342

- (1) 少子高齢化への対応策……………342
- (2) 社会構造変化に伴う新たな需要……………349
- (3) 成熟経済下での財政のあり方……………351
- (4) 構造改革の向こうに何が見えるか……………356

TOPICS 3

配偶者控除をどうすべきか……………359

第5章 英国の民営化に見る効率化と競争促進政策の導入

〈要約と結論〉……………374

1 「産業の空洞化」が懸念される日本の課題……………376

(1) 日本の「高コスト体質」……………376

(2) 規制緩和による競争促進が急務……………378

(3) 規制緩和を通じた構造改革への動き……………380

2 英国の構造改革は徹底的な「民営化と競争原理の導入」……………382

(1) 「英国病」時代の一九七〇年代と公益事業の赤字体質……………382

(2) サッチャー首相の登場と理念……………385

(3) 民営化で目指した競争原理の導入……………386

(4) 行政部門の効率化プロセス……………388

3 民営化による経営環境の変化——競争原理の導入……………392

(1) 政府所有株式の一般公開による民営化と政府の財政……………394

| | | |
|----------|-----------------------|-----|
| (2) | 隠れたコストの顕在化 | 395 |
| (3) | 公益ビジネスの事業環境の整備 | 396 |
| (4) | 外国資本の参入 | 401 |
| 4 | 電力・水道・鉄道に見る民営化企業の動向 | 404 |
| (1) | 電力 | 404 |
| (2) | 水道 | 411 |
| (3) | 鉄道 | 415 |
| 5 | 英国の経験、日本の新たな挑戦 | 424 |
| (1) | 英国民営化のポイント | 424 |
| (2) | 日本における構造改革特区の試み | 427 |
| (3) | 日本の新たな挑戦の行方 | 432 |
| TOPICS 4 | 英国におけるビジネスサポートサービスの展開 | 440 |
| 執筆者紹介 | | 458 |

エグゼクティブ・サマリー

環太平洋圏における
競争力回復に向けて



エグゼクティブ・サマリー

1 進行する空洞化

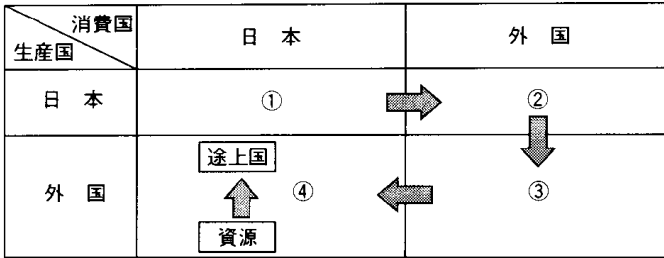
バブル崩壊後の景気低迷に対処するため、一九九〇年代には金融システムの正常化が目指され、併せて規制緩和による競争促進政策がとられた。しかし実態は、ケインズ経済学に基づく景気の刺激を目的とした財政支出拡大の繰り返しであり、金融システムの正常化は現在も先送りされたままである。バブル崩壊以降一〇年以上の歳月が経過しているが、金融仲介機能はいまだに不安定なのである。九〇年代を通じた総事業規模一〇〇兆円を超える公共投資の大幅拡大の結果、我が国の公的債務残高の対GDP比は一四〇%を超え、このまま安易な財政支出の拡大を続ければ、国や地方政府の財政は危機に陥るだろう。イラク戦争や重症急性呼吸器症候群（SARS）など世界景気に対する懸念材料が拡大する中で、日本経済の先行きにも不透明感が強まっていることは否定できない。しかし、国の歳入の半分近くを国

債発行に頼っている状況下で、景気刺激策としてさらなる財政支出の拡大を続けることは避けるべきである。財政政策に手詰まり感が強まる中で、インフレーターゲット論が勢いを得つつある。しかし、これを主張する人たちはコストの安い中国等の外国製品の我が国への輸入浸透度の上昇については言及を避けているようである。

今や、あるがままの現実を受け入れた上で日本再生プランを考える時期である。国家財政のさらなる悪化には景気後退下での長期金利上昇というリスクがあること、日本は自由貿易国家として行動する以上、競争力を失った産業は淘汰されることとなり、生き残るためには、より高付加価値製品へのシフトが必要であり、その過程では失業率の上昇が避けられないこと、少子高齢化の急速な進行を念頭に置くこと（日本のセーフティネットを維持するためには本格的な構造改革が必要）、の三点を認識することが日本経済再生の重要なポイントである。マクロ経済政策における金融緩和策、財政による景気刺激策が限度を迎えたと認識し、日本再生のための条件を探るべきである。結論を先に述べるならば、現状において進行しつつある空洞化への対応が同時に日本経済再生のための条件なのである。

まず、今日の日本企業が置かれている状況を振り返ってみよう。利潤率が戦後最低のレベルにある日本企業の経営戦略は本格的な「選択と集中」の時代に入りつつある。背景には、九〇年代の長期にわたる減速経済、そして貿易構造の変化がある。図―1は、戦後の日本企

図-1 日本企業の生産と販売地域



業と世界市場の関係を示したものである。①は国内で生産した商品を国内で販売する時代である。やがて商品に国際競争力が備わり、国内で生産した商品を外国に輸出する時代（七〇年代から八〇年代の日本）となる②。しかし、輸出の急増は相手国の失業問題を生み、対米関係に顕著に見られたように（八〇年代の日米貿易摩擦問題の結果、日本企業による米国での現地生産が盛んになった）、外国で生産した日本製商品を外国人に販売する直接投資の時代が訪れる③。この過程で国内生産設備が徐々に過剰となっていたが、当初は外国で生産された完成品の日本への輸入④の状態は目立つものではなかった（輸入の大半は原材料であり、輸入完成品が国内市場で国産品と競合することがなかった）ため、あまり意識されなかった。

しかし、九〇年代には日本企業の国際分業体制が進み、東南アジア地域で生産された低価格完成品が国内に浸透し始めた。日本企業の海外直接投資の増加に伴い、国内の空洞化が進み、安価な外国製品が日本国内で多く流通することとなった。さら